

答案用紙

チャレンジ問題

損益計算書
×7年4月1日～×8年3月31日 (単位：千円)

I 売上高		()
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	()	
2 当期商品仕入高	()	
合 計	()	
3 期末商品棚卸高	()	
差 引	()	
4 棚卸減耗損	()	
5 商品評価損	()	()
売上総利益		()
III 販売費及び一般管理費		
1 販売管理費	29,900	
2 貸倒引当金繰入	()	
3 退職給付費用	()	
4 減価償却費	()	
5 利息費用	()	()
営業利益		()
IV 営業外収益		
1 受取利息	()	
2 有価証券利息	()	
3 有価証券評価益	()	()
V 営業外費用		
1 支払利息	()	
2 為替差損	()	()
経常利益		()
VI 特別損失		
1 貸倒引当金繰入	()	
2 関係会社株式評価損	()	
3 減損損失	()	()
税引前当期純利益		52,554
法人税、住民税及び事業税		()
当期純利益		()

貸借対照表

×8年3月31日

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	()	買掛金	()
売掛金	()	短期借入金	()
有価証券	()	未払費用	95
商品	()	未払法人税等	()
為替予約	()	営業保証金	10,000
貸倒引当金	(△)	リース債務	()
固定資産		固定負債	
有形固定資産		退職給付引当金	
建物	()	リース債務	()
減価償却累計額	(△)	資産除去債務	()
車両	()	繰延税金負債	()
減価償却累計額	(△)	純資産の部	
リース資産	()	株主資本	
減価償却累計額	(△)	資本金	80,000
設備	()	利益準備金	19,900
減価償却累計額	(△)	繰越利益剰余金	()
投資その他の資産		評価・換算差額等	
投資有価証券	()	その他有価証券評価差額金	()
関係会社株式	()	繰延ヘッジ損益	()
長期貸付金	2,000		
破産更生債権等	()		
先物取引差金	()		
貸倒引当金	(△)		
	()		()

第1問

1		2		3	
4		5			

第2問

株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	株 主 資 本						新株予約権	純資産合計
	資本金	資本準備金	その他資本 剰余金	利益準備金	繰越利益剰 余金	自己株式		
当期首残高	5,000	800	700	300	2,980	△300		
当期変動額								
新株予約権の行使								
剰余金の配当								
繰越利益剰余金による その他資本剰余金の填補								
当期純利益								
自己株式の取得								
自己株式の処分								
自己株式の消却								
株主資本以外の項 目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計								
当期末残高								

第3問

(単位：千円)

ソフトウェア	第1年度の減価償却費	第2年度の減価償却費	第3年度の減価償却費
Aソフトウェア			
Bソフトウェア			

第1問

問1

- (1) 第1工程完成品原価 円
- (2) 第1工程完成品単位原価 円/kg
- (3) 第1工程月末仕掛品原価 円

問2

仕掛品—第2工程		(単位：円)
月初仕掛品原価 ()	完成品原価	
当月投入原価	前工程費 ()	
前工程費 ()	乙材料費 ()	
乙材料費 ()	加工費 ()	
加工費 ()	正常仕損費 ()	
	計 ()	
	仕損品評価額 ()	
	月末仕掛品原価	
	前工程費 ()	
	乙材料費 ()	
	加工費 ()	
	正常仕損費 ()	
	計 ()	
借方合計 ()	貸方合計 ()	

問3

- (1) 第1工程完成品原価 円
- (2) 第1工程完成品単位原価 円/kg
- (3) 第1工程月末仕掛品原価 円

第2問

問1

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

チャレンジ問題

原価計算

問題 P.10 解答解説 P.31

問1 製品A 1個あたりの貢献利益 円問2 製品A 1個あたりの貢献利益 円製品B 1個あたりの貢献利益 円問3 (1) 現有設備で生産するときの製品Aの年間最適生産販売量 個

(2) 新設備で生産するときの各製品の年間最適生産販売量

製品A 個製品B 個(3) 年々の差額キャッシュ・フロー 円(4) 新設備で製品を生産する案の正味現在価値は 円である。

よって、新設備で生産すべきで (ある ・ ない)。

(注) 正味現在価値がマイナスの場合には、金額の前に「△」を付すこと。また、()内は適切な語句を丸で囲みなさい。

問4 (1) 仮に新設備で製品Aおよび製品Bを生産し、その生産能力の上限に達している状況で、製品Aを1個増産するとき製品Bを何個減産する必要があるか。 個

(2) 両設備を併用して生産するときの各製品の年間最適生産販売量

製品A 個製品B 個(3) 年々の差額キャッシュ・フロー 円(4) 両設備で製品を生産する案の正味現在価値は 円である。

よって、両設備で生産すべきで (ある ・ ない)。

(注) 正味現在価値がマイナスの場合には、金額の前に「△」を付すこと。また、()内は適切な語句を丸で囲みなさい。

